



クリスマス号

徳島

1915年12月24日

クリスマス

今日、祖国ドイツはどこでもクリスマスの鐘が響きわたる。野原や森は深い雪に覆われ、雪の重さで木々はたわんでいる。よく晴れて冷え込んだ冬の夜、家々の窓は灯りで明るく照らし出され、暖かい部屋の中では、喜びながら今か今かと待ち望んでいる子どもたちの眼に、クリスマス・ツリーの蠟燭の輝きが映り輝く。

クリスマス！この言葉によって幸せだった子どもの頃を思い出さない人がいるだろうか？この言葉によって心から寛げない者がいるだろうか？多くのドイツの家庭では、今年のクリスマスを祝う催しは悲しみにあふれたものになるだろう。多くのクリスマス・ツリーのもとでは、夫や父親、息子や兄弟を欠くことになるだろう。しかし、

時間がこの痛々しい傷を癒すだろう。ベルギー、フランス、ロシア、そしてセルビアに存在する数多くの兵士の墓から、ドイツのために新しい時代が、労働と進歩と安寧の時代が開くだろう。ドイツの偉大さと未来のために命を捧げた全ての者たちへの感謝の念は、無くなることはないだろう。また、この一年半というもの、計り知れない苦勞と不自由さのもとで、そして絶えざる死の危険のなかで、ドイツの国土を敵の進入から守り、さらには無敵のドイツ軍隊を次々と敵国のなかへ送り込んだ者たち全てへの感謝の念も、無くなることはないだろう。

今日、われわれがとりわけ心に刻んでいるのは、身を切るような寒いクリスマスの日、塹壕のなかで、海岸で、そして海上で敵に対し監視を続けている者たちである！彼らに対し心からの挨拶と祝福を送りたい！君たち、敵の危険がさし迫っている君たち兄弟に敬礼！君たち、ゲルマンの名誉をもつ君たち監視人、どうかご無事で！君たち、君たちチュートン人防衛軍隊長に勝利あれ！君たち、決死の勇をふるって戦っている君たち戦士に栄光あれ！

講和についての考察

「天にまします神に、地上の平和に、人びとの喜びに、栄光あれ」。これはキリスト教クリスマスメッセージである。

一年のうちこの時ほど、つまりクリスマスのなかで歓喜の祝祭がまさに祝われているこの時ほど、講和について語るにふさわしい時はない。

講和の時が近づいているのを皆知ってはいるが、それがいつ結ばれるのかについて論及しようとは思わない。もしそのようなことを討議しようとするのであれば、それはうぬぼれの強い大胆な企てというものだろう。祖国にどのような利益が見込まれるか、このことについて語ることもわれわれの権限を越えた問題である。

むしろ、われわれの望んでいるのは今日の状況を明らかにすることであり、それに基づいて以下のことを調査することである。ずっと先の将来にわたり、われわれが望んだ講和のなかで生きていくことができるために、この背信的な押しつけられた戦争のなかで達成しなければならないことを成し遂げたのかどうかを調査することである。

よく知られているように、最近の帝国議会の召集後、社会民主党から次のような質問が行なわれた。全ての戦場で優位に立つことによって領土を防衛することができるのであれば、ドイツの側から講和の条件がはっきりと述べられるのかどうかという質問がなされたのである。

首相は次のように言明した。敵にも講和の願望があるのは明らかだと思われるが、しかし今日に至るまでそのような告白はない。敵は、「アラスのまとまりある部隊に始まってメソポタミアに至るまで」撃破できないことをまだ認めようとせず、逆になんとか軍事的に有利な状況に持ち込めるであろうとの希望をなおも抱いているかのようだ。こうした見解が敵のなかで支配的である限り、講和条約について語ることは当然できない。ドイツは待つことができる。というのは、戦果のあがる戦争の継続に必要な全てのものが存在しているからである。首相の最近の言葉のひとつはこうである。「戦争を繰り返さないための人的担保を提供する講和によってのみ、戦争の終結は可能である」。

しかし、この戦争もいつか終わらねばならない。首相の演説のなかで明々白々に述べられたように、日なたで生きる確実な場所をわれわれにも保障する講和だけが、われわれのために結ばれるのである。そのことについて、著名な政治著述家であるパウル・ロールバッハは、「講和への不安」という論文のなかで次のように述べている。「諸民族にドイツ思想への信頼を教えることによって、ドイツの未来に自由な道を開く唯一の手段がある。この手段とは、イギリスへの勝利である！」

われわれはこの勝利を達成することができるだろうか。この質問への答えとして、どのようにして勝利するのか、どこで勝利するのかをはっきり

させること、この点を後に発表する論説のためにとって置かねばならない。そこで、それが不可欠であることが故郷にいる全ての政治家、及び全ての兵士にはっきりと認識され、その目標を達成する手段と方法が見つけ出されることをわれわれ全員が知っている。

このクリスマス講和についての考察に際し、講和はまもなく結ばれるとの見込みではなく、講和は結ばれるとの確信、あるのは「ドイツの」講和だけであり、それはすばらしいクリスマスの贈り物であるということ、以上の点でわれわれ全員が一致している。

自分の置かれた状況のまずさにとらわれ過ぎている人、そうした人は自分の思いを故郷に馳せてみよ。フランス、ロシア、そしてバルカン半島でわれわれの勇敢な同志が引き受けなければならない困難、苦痛、辛苦、不自由等全てを次から次へ思い描いてほしい。そうすれば、それぞれが次のことを悟るであろう。われわれがここで最低限、祖国のために行うことができるあるいはほしいことは、われわれの状況のまずさが避けられないものであることを知ることであり、講和が結ばれた時にわれわれは肉体的にも精神的にも澁刺とした人間として故郷へ帰還できるよう配慮することである、そして祖国やわれわれの天職が与えてくれた場所で、愛すべきドイツとわれわれ自身の安寧のために新たな価値を創造することである。

慈善の贈り物

われわれのためにも、下僕「ループレヒト」は自らの道を見つけ、疲労困ぱいして先日の夕方ここへ辿り着いた。というのは、担いだ荷物の重さのために彼はほとんど地面に押し潰されんばかりだったからである。彼流のやり方だったが、実際にまったく人目をしのび人に見られることなく、彼はやって来ようとした。だが、有能な新聞通信員が眼を大きく見開いていたので、そのサンタクロースは「職務」として担いだ重い荷物を降ろす

ことができず、私が彼の袖をつかんで引き留めた時に、すなわち私が『トクシマ・アンツァイガー』の記者であると名乗り、「インタビュー」を受け入れてくれるまで引き留めたので、彼は安堵のため息をつき額の汗をぬぐった。

それから順を追って、私は彼から非常にさまざまな情報を聞き出した。われわれ宛への非常に多くの郵便小包と挨拶の言葉を持って、彼は遙か遠く離れた故郷からやって来たのだった。しかし、日本に近づくにつれ、ますますたくさんの要求が彼に突きつけられた。漢口でさっそく彼はドイツの婦人たちに引き留められた。その婦人たちはわれわれのために、この上なく上等な小包を彼に持たせた。本当は、下僕ループレヒトはその小包を受け取りたくはなかった。というのは、中国にいるわれわれ同郷の者たちは、ずっと以前から、とりわけクリスマスの今日、大いなる献身と愛情を持ち、シベリアに抑留されている哀れな者たちの世話をしていることを彼は十分正確に知っていたからである。冗談ではないが、彼に約束されていたのは、確かにそのとおりで、まちがいではないとご婦人たちは言った。ご婦人たちは、シベリアに抑留されている者たちに向けた数多くの活動にもかかわらず、われわれのことをなおも思ってくれる時間を見つけ出してくれたのだ。それはまさに、青島にやって来た時と同じようであった。すなわち、彼はかつてクリスマスの時にわれわれを見つけ出すのを常とした場所にいたのである。ここでも、彼はまだ青島にいるドイツの幾人かの同郷人から預かった大きな袋を持ち帰らねばならなかった。それだけでもう荷物は彼に重くのしかかった。しかし神戸と横浜にやってきた時、激しい驚きが彼を襲った。われわれドイツの同郷人と親密な間柄であるオーストリア・ハンガリー人が運んできた荷物の全てを、彼は見たのである。すなわち、その全てを今や彼は運ばねばならなかった。そこにある全ての荷物を！大小さまざまな木箱や袋、そして小包、それら全てを大きな袋にどうか詰め込み、うめき声をあげながら最後の道のりを歩み出そうとしたその時、横浜にいるドイツの子どもたちがさらにやって来て、クリスマスツ

リーの飾りが入った木箱を、あいさつの言葉とともに渡してほしいと彼に押し付けたのである。

私は今一度通信員としての好奇心に駆られ、直ちにそれらの木箱に襲いかかり、そのなかに何が入っているかを確かめようとした。

しかしその時、老僕ループレヒトは本気で怒り、それら神聖なもの全てを守ろうとする姿勢を示した。そして、よく響きわたる大きな低音のバスで次のように言った。「全ては、クリスマス・イヴにはじめて見なければならぬ！それより前には見ない！」、と。彼の言うことは全く正しいと私は認めた。

それから、私は彼に対して次のように言った。われわれのための贈り物を持たせた人たち全員のところに帰路立ち寄って、われわれのあらゆる限りの感謝の念を彼らに伝えてもらいたい、と。皆がそのことを理解することができるかどうか、あらかじめ私が問う必要はおそらくない。

しかし、イギリス人の殿方も、クリスマスの喜びのためにどうしても寄付をしたいと言ってきかなかつたと述べるのを私は危うく忘れるところだった。本当にびっくりすることがある！下僕ループレヒトが日本に向かう途中、ダーダネルス海峡を通過した際、イギリス人たちが大急ぎで、大砲と馬、そして兵士全てが荷造りしようとしていたのを彼は見たのである。要するに、イギリス人たちはゲリボルを撤退しているところだったのである。実に、トルコと主要列強国にとって、これはクリスマスの思いがけない贈り物であった！

メリークリスマス！

クリスマスコンサートプログラム

第1部

1. 捧げ銃、週日の第一行進曲 アイルボウト
2. 春のめざめ エマヌエル・バッハ
3. 弦楽五重奏曲2曲
 - a) ボッケリーニのメヌエット
 - b) シューマンの子どもの情景第7曲 トロイメライ
4. 「美しく青きドナウ」 J. シュトラウス
オーケストラ付き男声合唱、
H. ハンゼン編曲の男声合唱のためのワルツ曲

第2部

1. 『タンホイザー』とワルトブルクの歌合戦 R. ワーグナー
2. クリスマスの風情 O. ネートバール
3. 愛を夢見る ワルツァー・ベッカー
4. 大クリスマス・メドレー H. ハンゼン
序奏「天高くからここへ私はやってくる」 1) 一頭の馬が生れた
2) 子供たち、あすは何かが起こるだろう 3) 下僕ループレヒト
がやってくる 4) 盲目の手回しオルガン弾き 5) クリスマスプ
レゼントの分配、大喜び 6) 聖夜 7) 教会の塔の吹奏楽団「おお、
楽しく幸いなる」 8) もみの木 9) 子どもたちの大喜びと騒ぎ
10) 父ちゃんはギターを独奏する 11) グレーテルは夢みる
12) 夜間の降雪 13) 祝祭日での礼拝 14) 衛兵パレードが通過
する 15) 祖父が昼寝 16) そり乗り 17) 村での舞踏音楽
18) 帰郷 19) 終曲「おお、楽しく幸いなるクリスマスの時期」

第2回演劇の夕べ

1915年12月26日、徳島

ハインリッヒ・ブルトハウプト

『活人画』

一幕の喜劇

登場人物

ヴァルトシュテッテン男爵夫人

テレーゼ、男爵夫人の娘

ロレンハーゲン教授、彫刻家

哲学博士ヘルマン、教授の甥

ヤーコプ、男爵夫人に仕えるかつての兵士

劇はヴァルトシュテッテン男爵夫人の別荘で展開される。

8時開演

上演時間約45分

レッシングとハウプトマン。この二人の名前は、祖国の文学史上偉大な二つの時代へとわれわれを誘う。一方では、ゲーテとシラーの二人の詩人を有した擬古典主義の時代へ、他方ではごく最近の過去へ、すなわち文学における最も激しい戦いの時代へとわれわれを誘う。文学の創作をめぐる、古い原理と新しい原理がいわば生死を賭しての戦いを繰り広げた時代へとわれわれを誘う。今日ではその戦いには調停が成立したとすることができる。前世紀のはじめに発したこの二つの流れは、批評の前で同じような承認を、今日では享受しているのである。戯曲は依然として文学の主要なジャンルとみなされ、ようやく徐々にではあるが小説がこうした地位を獲得したので、新しい芸術をめぐる激しい戦いが舞台の上で決着がつくまで繰り広げられたとしても、そのことは理解できる。19世紀は、さまざまな文学的諸潮流がせめぎ合う時代だったと言えよう。それに続いたのが、

擬古典主義の亜流模倣者であるクライストとグリリパルツァーを有したロマン主義の時代だった。ゲーテの時代には、自由の戦いによってドラマのなかにナショナルな傾向が生じ、48年革命の時代がそれに続いた。ヘッベルとルートヴィヒはリアリズムの理想のために戦った。彼らは、遂にドイツ帝国の統一後ゆっくりとではあるが、新しい時代が栄えるまで、「近代」というスローガンによって伝統的な原理が今にも打破されようとした新しい時代が栄えるまで戦ったのである。全ての芸術教義はしばしば情け容赦なく展開される批評に対し、あくまでも自説を主張するであろう。特にわれわれが関心をもつ「近代」の入口のところには、近代的方向を大方準備した才気溢れる批評家集団がいる。キュルンベルガー、フレンツェル、ブルーメンタール、マウトネル、パウル・リンダウ（4幕から成る彼の演劇「兄弟」はこの舞台に掛かる予定である）といった名前が自ずと浮かんでくる。これらの人物の真ん中には、もちろんそうした人物に与するというよりもむしろ対抗して、ブレーメンの批評家ハインリッヒ・ブルトハウプト（1849-1900年）がいる。彼は古から受け継いだ原則をしっかりと擁護し、とりわけ自然主義の前に、その主要な代表的人物は後に見るようにハウプトマンとゾーダーマンであるが、立ちちはだかった。彼は、レッシングの『ハンブルク演劇論』に十分比肩しうるような才気煥発な演劇論をわれわれに提供している。また、彼は創造的作家としてあらゆる分野で活動し、その文学的才能から一連の影響のある戯曲を生み出した。今日上演する喜劇は、彼が伝統の弟子であったことを示しているが、敵手からも多くのことを受け継いでいる。こうしたちょっとした対話を行うことによって、明らかに彼は近代から紛れもなく感化されていることがわかる。

芝居のプログラムが、ホールで10銭の値段で入手できることを指摘しておきたいと思う。その収入は再び劇団の金庫に入ることになっている。さらに、今月26日午後4時には、リハーサルをするためホールを退出願いたい。

礼 拜

再び大変喜ばしいことに、日曜日にシュレーダー博士がわれわれのところにやって来て、福音の礼拝を執り行ってくれた。

カトリックの礼拝は、第二休日の午前9時30分に行なわれる。当地のスペイン人宣教師指導者は、以前にもそうであったように、親切にもわれわれのところで再びミサを捧げてくれる。

われわれの収容所の名前で、クリスマスの祝福が福岡のマイヤー・ワルデック司令官殿と救援委員会理事会宛に送られた。両方の祝福カードは海軍砲兵隊のシュミットによって描かれた。

学校休講：今月21日以降、全てのクラスがクリスマス休暇に入る。授業が再び始まるのは1916年1月3日である。

チェス・コーナー

(駒の略語 K=キング、D=クイーン、L=ビショップ、
S=ナイト、T=ルーク、B=ポーン)

第71問の解答

1. Tci-ei Sc2-d4

2. c3-e4 詰み

1. 任意の手

2. DかSで詰み

第72問の解答

1. La1-b2 Ke3-d2

2. Lb2-d4+ K任意の手

3. Tg3-g1 詰み

1. Ke3-e4

2. Ta2-a4+ Ke4e3

3. Lb2-c1 詰み

1. e5-e4
2. Lb2-g7 Ke3-f4
3. Lg7-h6 詰み

第 72 問の解答を送ってくれたのは、ヨーゼフ・ヴェーバーである。

第 73 問

白：Kc1, De8, Ta3, f4, Lg1, Se3, d7, Ba5

黒 Kd4, De4, Sc3, Ba6, c2, c4, d6, 15, g2

2 手詰め

第 74 問

白：Ka7, Dh6, Tc2, e6, Se7, Bb8, f2, f3

黒：Kc5, Lc3, Sd5, f4, Bb4

3 手詰め

特別にすばらしいクリスマスプレゼントが、編集の終了直前に京都から到着した。ゲデーケ嬢とマルガレート・シラー嬢がわれわれに詩を綴ったノートを送ってくれたのである。彼女たちはそれをわれわれのために作成し、そして書き写してくれた。そのノートを複写した新聞を印刷したので、今日一人一人にその一冊を手渡すことができる。そのすばらしい贈り物を提供してくれた親切な女性たちに、心からの感謝の気持ちを捧げたい。

愛するアンナ！

裕福な人たちのいるところへ、君と同類の人たちのところへ行けという僕の美しい歌を君は非難したので、いまや君にそれは思い違いであるとの報告をしなければならない。それというのも、公爵の娘であるフランス人女性音楽教師の頬をつねる程、僕がうぬぼれているとは誰も信じないからである。愛する友よ、ドイツ人一等兵に、ひとりの女が自分はフランス人公爵の娘であると述べるならば、彼はおそらく鼻にしわを寄せ怪しむだろう。したがって君は僕に対し、自分のパパはフランス人公爵なんかではなく、板金細工職人にすぎないと書く必要はない。君のパパは板金細工職人だということを僕は十分に承知しているから。きっと本物の板金細工職人は偽の公爵よりもずっと価値があるのだ。というのは、君はこれを、つまり公爵の背後にあるものをおそらく読み取っただろうから。愛するアンナ！君は、フランス人の贅沢のために突然僕の心が柔弱になったと考えているように思う。つまり、人は平和状態になったら額にしわを寄せ、クネチュケは真の金属細工職人では決してなくて伊達男にすぎないとひとりつぶやくのだから。しかし、伊達男だからといって決して心配することはない。実際に僕は伊達男のような顔をしていないのだから。

愛するアンナ！すなわち、その間にイギリス風の粗末な婦人服の代わりに、先週僕が手に入れた新しい衣服がまたもなくなってしまった。その婦人服は、ルーシイの墓地で見つけたインド人のターバン帯に由来していた。そのターバン帯は、木製の十字架と勇敢なフランス人兵士がここに眠る！と書かれた碑文を載せた低い墓の傍に置かれていた。その場で僕は帽子をとり、安らかに眠りたまえ！と独り言をつぶやいた。それから面白いことをしようと考え、ターバンを巻くために帯を取った。その時、正気で考えてもおそらくその行為は子供の遊びであり、後で考えても決して生活体験があるとは思えない明々白々な愚行であった。そのターバン帯の端を頭に

巻きつけたので、僕は目が見えず、そのため別の端を僕の左の長靴にぐるぐる巻きつけたから。そこで、右手を使って僕はこの状態を取り除こうとした。

愛するアンナ！それはちょっとした災難だということがすぐにわかった。というのは、右手を用いて左の長靴を掴もうとするが、見る事ができないため、この行為は決して容易なものではなかったから。君が部屋でこういう実験を試みればすぐに、同じことをきっと感じるだろう。僕は二、三回ぴよんぴよん跳びはねた、と今君に書かねばならない。しかし、ぴよんぴよん跳びはねたことによって、僕のもう一方の長靴も絡まったため、私はひっくり返りフランス人の墓の上にドスンと尻もちを着いてしまった。

愛するアンナ！君がこの場を見たら、きっと鳥肌が立っただろう。小説に出てくるように、墓の盛り土が壊れたから。それというのも、まことに薄い板の上にほんの二、三回すくった土が掛けられていただけだったから。そこでその板はバリと音を立てて壊れ、僕は穴のなかに落ちてしまった。愛する友よ！おそらく僕は野ウサギでもなければ臆病者でもない。僕はドイツ人一等兵だ。しかし僕がフランス人兵士の墓のなかに落ち、そのため本当にびっくりして、失礼しました、ムッシュー！と激しく叫んだことをおそらく信じてもらえるだろう。僕は、穴の底に着いた時たくさんの白いもののなかにいた。それらはパキッと壊れ濃い湿り気を発した。そこで、僕は臭いを嗅ぐため、指をそのなかに入れた。そうして、ははあ！愛するアンナ！と僕は独り言を言った。というのは、君に分かってほしいのだが、これはフランス人兵士が眠る墓なんかではなく、食糧地下貯蔵室で、農民たちがわれわれを騙すためその上に十字架と碑文を載せたんだ。だが、そうは行かないぞ。その兵士はすばらしい香りを放っていたので、僕は卵がいっぱい入った洗濯かごのなかに落ちたのだということにすぐに気づいた。そこで、今や君は疑いを差し挟まないだろう。僕がこの上なく上機嫌であり、そのため、その籠のなかに大急ぎで入ってその籠がひっくり返り、

穀物の粉の入った袋のなかに僕が巻き込まれてしまったことに。その時、僕の新しい衣服に卵と粉が付着し、こっけいな眺めを呈したのは驚くことではない。そして、私が食糧地下貯蔵室のことを報告したので、中尉殿はこう述べた。クネチュケ、上着を脱ぎたまえ、われわれはそれから焼きケーキを作ろうではないか！と。

愛するアンナ！この戦争が始まって、僕は君にこう報告した。フランス人のような豪華さを見せようと、僕はズボンにアイロンの折り目をつけ、あるいは香水をつけ、うろつき回る伊達男になっていると君には思ってもらいたくない、と。そんなことはなく、われわれはそうようなくだらないことをする時間はないのだと君に書かなければならない。しかし、君はきっと僕の言うことを信じるだろう。世界大戦のなかで多くの埃が舞い上がり、いつも飯ごうの蓋で身体を洗っているとパセリがすぐに首筋から生えてくるので、汚れた肌をごしごしこするために僕は洗濯桶とジョウロを用いて浴場を作ったことを。僕は非常に高貴な身分になったようだと言いつつ、いながら、水浴しつつこの手書きを書いているのだ。愛するアンナ！今や僕は、「自宅で入浴」との格言¹をわずかに報告し、早く終わりにしなければならぬ。では、もうぎりぎりの時刻だ。君にお別れの口づけを。

君の親愛なる

ハインリッヒ・クネチュケ

1 実際には格言ではなく、広告映画のタイトル

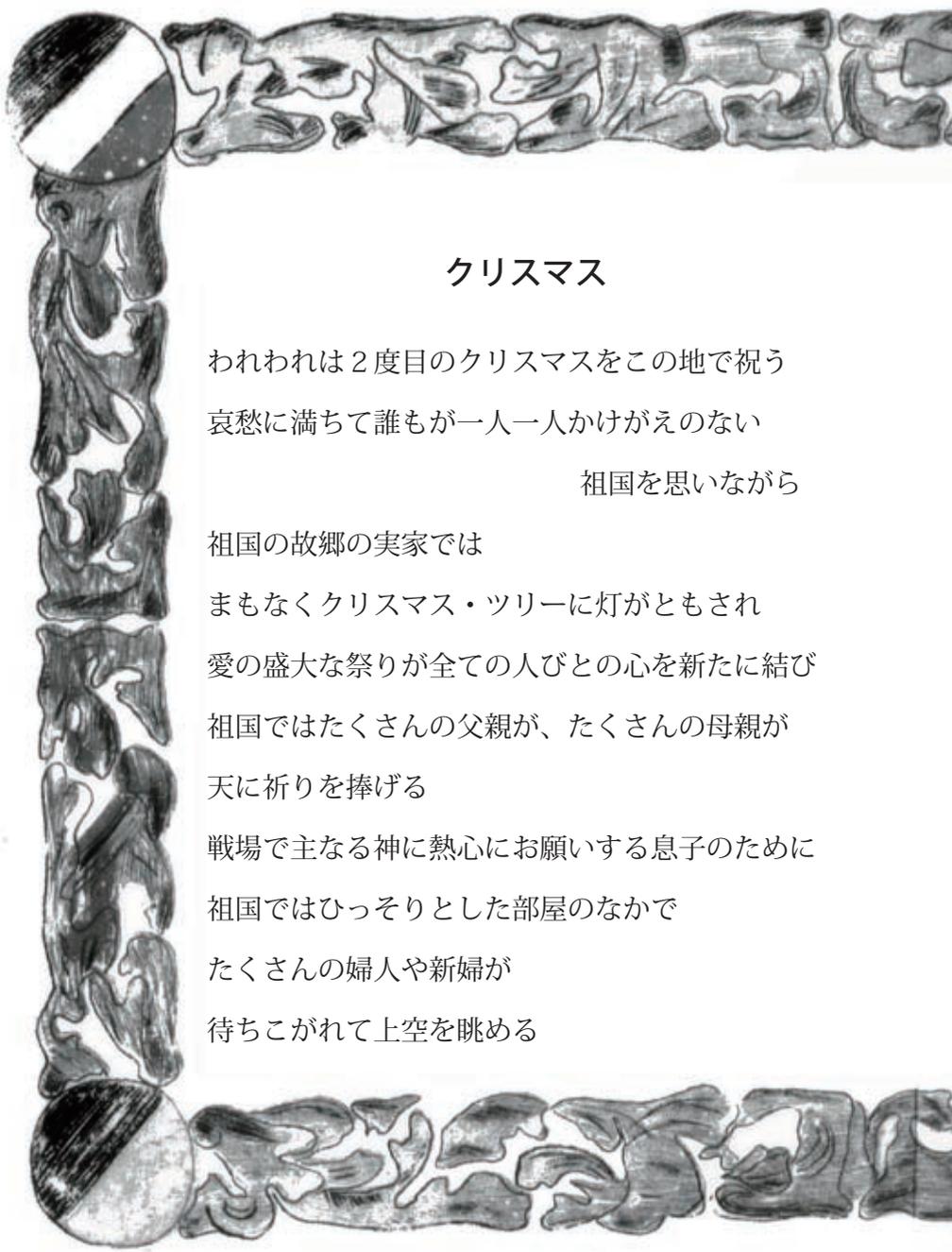


シュピーゲル (鏡)

『トクシマ・アン
ツアイガー』
クリスマス号
ユーモア付録



クリスマスの
ために『トクシマ・
アンツアイガー』
のおじさんも
君たちの
幸せと
最善を
祈り、そして
何よりもまず、
君たちに
おめでとうと
言う。



クリスマス

われわれは2度目のクリスマスをこの地で祝う
哀愁に満ちて誰もが一人一人かけがえのない

祖国を思いながら

祖国の故郷の実家では

まもなくクリスマス・ツリーに灯がともされ

愛の盛大な祭りが全ての人びとの心を新たに結び

祖国ではたくさんの父親が、たくさんの母親が

天に祈りを捧げる

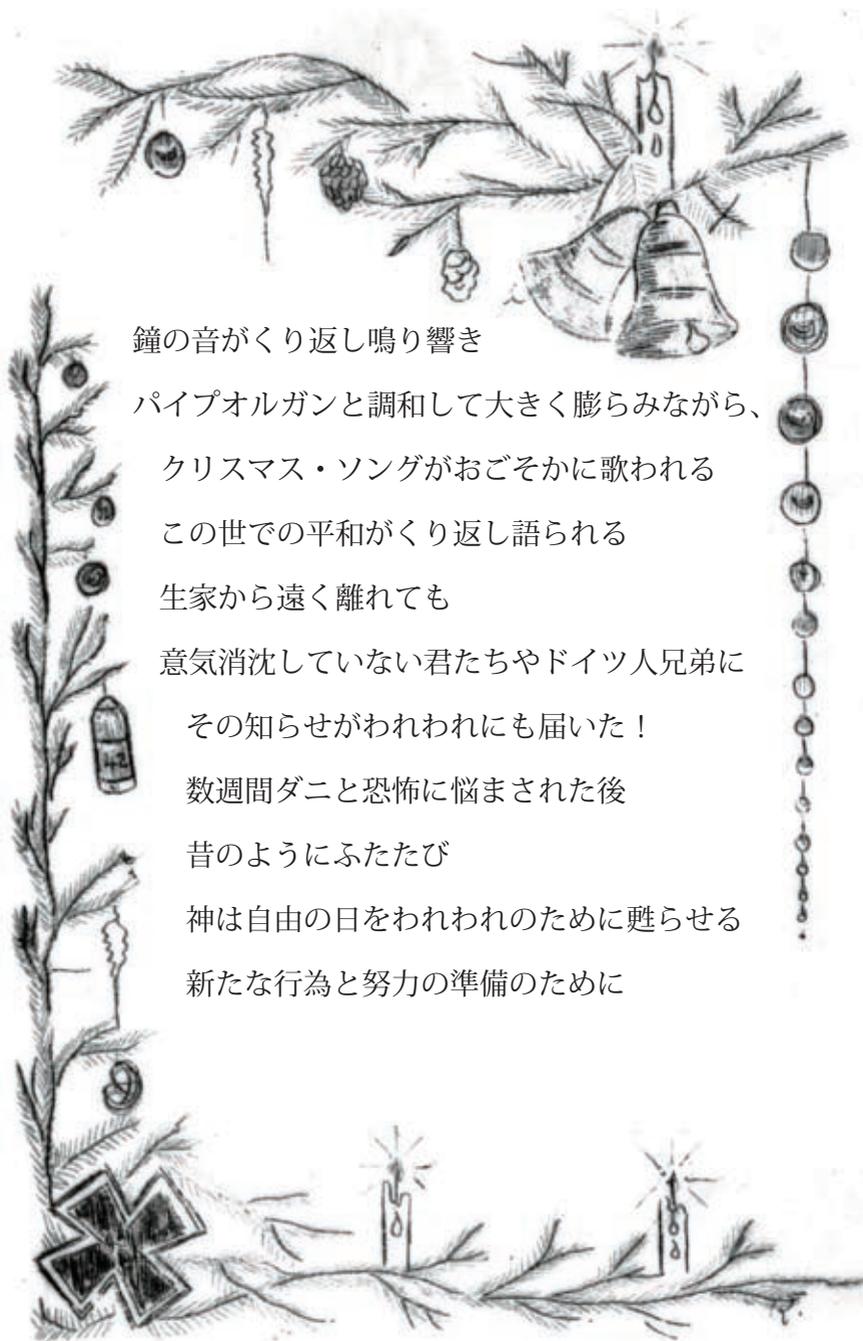
戦場で主なる神に熱心をお願いする息子のために

祖国ではひっそりとした部屋のなかで

たくさんの婦人や新婦が

待ちこがれて上空を眺める





鐘の音がくり返し鳴り響き

パイプオルガンと調和して大きく膨らみながら、

クリスマス・ソングがおごそかに歌われる

この世での平和がくり返し語られる

生家から遠く離れても

意気消沈していない君たちやドイツ人兄弟に

その知らせがわれわれにも届いた！

数週間ダニと恐怖に悩まされた後

昔のようにふたたび

神は自由の日をわれわれのために甦らせる

新たな行為と努力の準備のために